

令和7年度「学校給食への有機農産物等使用促進による食の指導充実に関する調査研究」

成果報告書

神奈川県高座郡寒川町

■事業の概要、経緯、目的

学校給食において、地場産物等の使用促進による食の指導充実を図るために必要な調査研究を実施する。着目する点は、安定的な供給体制を構築し、地場産物等の使用促進方法および地場産物等を活用した食育への展開の2点とする。

寒川町においては、令和3年度から地場産物等の中でも町内産に特化した取組を実施しており、本調査研究を活用し更なる推進につなげるため調査研究を行った。

学校給食は学校給食法にも示されるとおり、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たしている。それに加え、食育推進基本計画にも学校給食において国産割合を高めるとともに地場産物を活用した取組等を増やすことを目標としている。

学校給食法の目的、食育基本計画における目的の双方を達成するために、本事業を実施し、当町における課題等を解決するとともに、現在取り組みを行っている、もしくは、検討している自治体の課題解決の一助になることを目的とする。

■調査研究の対象情報

○対象調理場：寒川学校給食センター

○提供学校数：8校（小学校5校、中学校3校）

【小学校】

・寒川小学校	児童数：487名	・一之宮小学校	児童数：325名
・旭小学校	児童数：631名	・小谷小学校	児童数：438名
・南小学校	児童数：605名		

【中学校】

・寒川中学校	生徒数：292名	・旭が丘中学校	生徒数：636名
・寒川東中学校	生徒数：390名		

○給食方法：食缶方式による完全給食

■研究対象と内容

事業計画において、研究対象を①「児童生徒」・②「農協および生産者」として、次のような研究内容をもとに事業に取り組んだ。

①児童生徒に向けた研究内容

- ・地場産物の活用に望ましい献立検討および児童生徒の反応等把握。
- ・地場産物の活用から地域を知るきっかけとなる周知方法を検討し認知度等を確認。
- ・地場産物と仕入れ食材を使用した同一献立における喫食率（残食率）を把握し、地場産物活用の効果検証を実施。

②農協および生産者に向けた研究内容

- ・生産者にとって学校給食への納品の弊害を検証。
- ・生産者の新たな販路としての学校給食となるような方策を検討。

■調査研究による実践および成果

①児童生徒に向けた実践

- ・地場産活用を献立において可視化し、児童生徒に身近なものとした。献立を検討するのではなく、使用できる食材は極力活用することとしたことで、実際に地場産に関する認知度は71.5%となり、活用を継続する意義を見出した。
- ・地域を知るきっかけづくりとして、小学校2年生の授業において生産者向けのインタビュー授業を実施した。授業終了後には、生産者を囲んで一緒に給食を喫食し、地域の生産者と交流を深めることにつながった。**資料1 参照**
- ・地場産物の納品時にはHPで公開している「今日の給食」に生産者の情報等を記載し、生産者の認知度を高めるよう努めた。結果として、児童生徒が圃場にいる農家へ声掛けするなど地域交流が深まった。
- ・喫食率（残食率）の把握は努めているものの、研究内容とした同一献立での比較や効果検証には至らなかった。

②農協および生産者に向けた実践

- ・複数回の意見交換、農協や生産者に向けた研修会の実施し、学校給食への地場産物納入の弊害となる要因を検証した。推測される要因は2点あり、納品日と規格が大きいと考えている。**資料2 参照**
- ・前述の要因を解消すべく、野菜貯蔵庫を新たに設置し、納品日に幅を持たすことで要因を1つ減らすことにつながった。また、給食調理の現場において求められる規格と生産される食材の規格に相違がもう1つの要因と判断はできたが、こちらについては継続的に意見交換を行っていく必要がある。
- ・新たな販路としての学校給食という点については、町農政課と連携し新規就農者に学校給食の取組を紹介することや、農協の研修会などにも参加してもらう形で実際の納品につながった。

■実践を踏まえた課題等

今回の調査研究を通じて、地場産物を活用した食育の推進にはつながったと考えるが、さらに当該事業を推進していくためには、以下のような課題を解消することが必要と考える。

①児童生徒に対する課題

- ・地場産物の生産に合わせた献立検討

(課題解消による想定効果)

生産時期の献立に、地場産物を組み込むことで使用が促進され、児童生徒において地域の生産物の特性や旬を知ることができる。

- ・カリキュラムの中に組み込めるような「食に関する全体計画」の確立

(課題解消による想定効果)

学校給食の提供する側だけでなく、各学校において食育推進の1つに明確に地産地消を位置づけることができる。

- ・児童生徒が地域を自然に学べる仕組みづくり

(課題解消による想定効果)

地元の食材を中心とした地場産物が使用されることで、学校生活以外の場で圃場などを見ることで地域を知ることができる。

②農協および生産者に向けた課題

- ・学校給食に適した規格のすり合わせ

(課題解消による想定効果)

生産者、使用者どちらにも無理がない規格情報が共有されることで、出荷や使用の促進につながる。

- ・豊作時等の地場産品の二次利用

(課題解消による想定効果)

学校給食が販路の1つとなることで、生産者の提供意欲向上につながる。

- ・計画的な作付につながる連携（献立に合わせた生産）

(課題解消による想定効果)

生産者の安定出荷につながり、作付け面積増や休耕地の活用などにつながる。

- ・学校における食育への関わり

- ・体験学習等の実施

(課題解消による想定効果)

生産者と交流や体験により、児童生徒の知識習得の浸透化が期待できる。

第2学年 生活科学学習指導案

- 1 日時 令和7年12月18日(木) 第4校時
- 2 場所 [視聴覚室]
- 3 学級 2年1組・2組・3組(2年全学級)
- 4 単元名 もっと もっと まちたんけん
- 5 単元観について

地域と関わる活動を通して、地域で働いたり生活したりしている人々と自分たちの生活との関わりについて考え、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々の地域に対する思いに気付くとともに、地域により親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする態度を育てたい。

6 児童の実態

給食について興味関心が高く、給食は好きで、よく食べてくれている。感謝して食べている児童が多い。学校給食では、「地産地消」を推進し、地域の食材を生かした献立を計画的に提供しているが、それについて、知ってはいても、「野菜が嫌い」「味付けが好みでない」「時間がない」といった理由で苦手な食材や料理を残してしまうことも頻繁にある。

7 単元の目標

地域と関わる活動を通して、地域で働いたり生活したりしている人々と自分たちの生活との関わりについて考え、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや地域の人々の地域に対する思いに気付くとともに、地域により親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

【学習指導要領との関連(3)(8)】

8 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
・地域の人々と関わる活動を通して、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々の地域に対する思いに気付いている。	・地域の人々と関わる活動を通して、地域で働いたり生活したりしている人々と自分たちの生活との関わりを見つけている。	・地域の人々と関わる活動を通して、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとしている。

9 単元計画(全 12 時間)

時間	学習活動・内容	重点評価観点		
		知識	思・判・表	態度
1	「もっともっと まち たんけん」 ○春の探検について想起する ○訪問したい場所を話し合う ○探検に向けて、自分の思いや願いを伝え合う		○	
2	「秋のまちたんけんに出かけよう」 ○探検計画を確認し、準備を整える ○給食センター見学の際にインタビューしたい内容を考える	○		
3（給食センター見学）	「秋のまちたんけんに出かけよう」 ○給食センター見学 ○中央公園の見学		○	
4	「はっけんしたことをつたえ合おう」 ○探検の様子を振り返る ○発見したことを発表する	○	○	
5	「はっけんしたことをつたえ合おう」 ○給食センターへのお礼の手紙を書く	○	○	
6	「はっけんしたことをつたえ合おう」 ○次の探検の計画を立てる ○次の探検に向けた思いを伝え合う		○	○
7	「まちの人の話を聞きに行こう」 ○インタビューの計画を確認し、準備を整える			○
8	「まちの人の話を聞きに行こう」 ○農家の方に聞いてみたい内容を考える	○		
9（農家の方の話を聞く） [本時]	「まちの人の話を聞きに行こう」 ○実際に給食の食材にする野菜等を納品してくれている農家の方の話を聞く ※農家の方と一緒に給食を食べる。	○		
10	「まちの人の話を聞きに行こう」 ○農家の方に聞いた話を振り返り、感想を発表しあう ○お礼の手紙を書く		○	

11	「まちの大はっけんをあつめよう」 ○前時までの気づきを見返す ○「大はっけん」を学級で伝え合う ○自分たちの地域について話し合う ○気付いたことや考えたことを書く	○	○	
12	「いちばんのはっけんは何か」 ○単元全体を振り返り、感じたことや考えたことを伝え合う ○これまでの自分の活動についてまとめる ○これからやってみたいことを伝え合う			○

10 本時の目標

(1) 目標

地域で生活したり働いたりしている人について、それらの人々はさまざまな工夫をしていることに気付いている。

(2) 食育の視点

○給食の食材を納品してくれる農家の方にインタビューをして、地域で取れる食材が給食に使われていることを理解し、大切に感謝して食べようという意欲を持つ(食文化)

11 本時の展開 (本時は 9 時間/ 12 時間)

学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点 評価 ◎
1. 学習の課題を確認する。	・今日は給食に食材を届けてくれている農家の方に来てもらいました。どんなお話が聞けるかな。	・児童が集中して話が聞けるように話す人たちに注目させる。
給食の食材を届けてくれている農家にインタビューをして、さまざまな工夫を知ろう。		
2. 来てくれた地域の農家の方や J A の方の話を聞く。	・まず 3 人農家の方と J A の方のお話を聞いてみよう。	・JAの方に農家を紹介してもらいながら、それぞれの農家の方が普段の給食の食材の生産者だ

・小松菜やほうれん草など実物を見せながら行う。		と捉えさせる。
3. 農家の方に事前に考えておいた質問をして答えてもらう。	・みんながこの前の授業で考えた質問をしてみよう。 「寒川町でもたくさんの野菜を作っているのだな」	・あらかじめ児童が考えておいた質問を掲示しながら、質問する。
4. まとめをして、農家やJAの方にお礼をする。	・どんな話が心にのこったかな。 ・びっくりしたことはあったかな。 ・ありがとうございました。	◎地域で生活したり働いたりしている人について、それらの人々はさまざまな工夫をしていることに気付いている。 【知識・技能】

12 評価

○給食には地域の食材がたくさん使われることを知ることができたか。

農家さんへの質問 寒川町立旭小学校2年生より

- ①なんで「みんなの食べ物を作る」仕事をしようと思ったのですか。
- ②農家さんの好きな野菜はなんですか。
- ③一番大変なことはなんですか。(天気・虫・暑さ・寒さなど)
- ④おいしい野菜ができるのは、どんな工夫があるからですか。
- ⑤いっぺんにたくさん作るために、工夫していることはなんですか。
- ⑥収穫の時、野菜によって道具は変わりますか。
- ⑦給食センターへは、どうやって運んでいますか。(時間・箱・温度など)
- ⑧何人で収穫していますか。
- ⑨畑の大きさはどのくらいですか。
- ⑩1回の収穫で、どのくらいの野菜がとれますか。
- ⑪農家さんになるための勉強は、どんなことをしましたか。

「のうかさんのお話を聞いて」 名前（ ）

① びっくりしたこと・はじめてしたこと（3つ）

1、

2、

3、

② 「すごいな」「たいへんだな」と思ったこと

--

③ そのりゆう・わけ

--

④ いちばん心にのこったお話は？

--

☆今書いた中から、のうかさんにいちばん伝えたいことに○をつけよう。

・のうかさんが読んだら、うれしくなりそうなもの

・「ありがとう」のりゆうになりそうなもの

ふりかえり 先生の問いかけ

- ・どんな話がいちばん心にのこった？
- ・えっ、そうなんだ！と思ったところは？(びっくりしたこと・心に残っていること)
- ・農家さんお仕事で、大変そうだなって思ったのはどこ？
- ・すごいな、がんばっているなと思ったところは？
- ・もし農家さんがここにいたら、何を伝えたい？
- ・ありがとうございましたのあとになんてつたえたい？
(これからはたくさん野菜を食べますとか)

お礼の手紙の書き方

- ・わたしは、～がいちばん心にのこりました。
- ・なぜなら～と思ったからです。
- ・これからも、～してください。ありがとうございました。など、？

☆お礼の手紙を書かせるときに注意すること☆

楽しかった→なにがたのしかった？

楽しいの中に、どんな話があった？

のうかさんが、がんばってるなと思ったところは？



当日授業風景





令和7年度 「JAと連携した地場産物供給体制づくり」



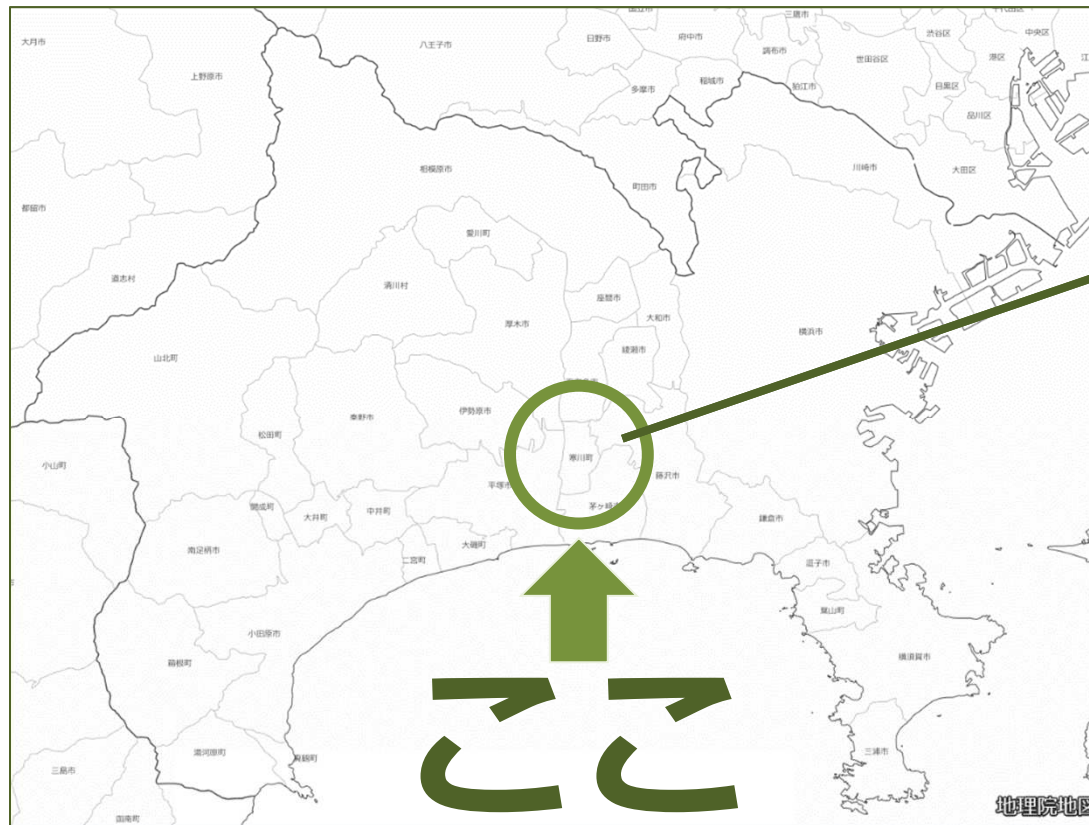
もくじ

1. 寒川町の概要について
2. 地産地消における現状
3. 課題と具体的な取り組み
4. 今後に向けた展開
5. まとめ
6. 質疑 等

1 - 1. 寒川町の概要（町について）

■位置・人口・面積等について

- ・ 神奈川県中央部を流れる相模川の河口から上流約6km左岸に位置する町
- ・ 人口は全国町村の中で5番目の人口（R7.10.1現在）
- ・ 東西2.9km、南北5.5kmで平坦な土地
- ・ 町中央部には、年間200万人程度が参拝に訪れる「寒川神社」があります



人口：48,224人（R7.11.1時点）

面積：13.42km²

隣接市町村

東：藤沢市

西：厚木市、平塚市

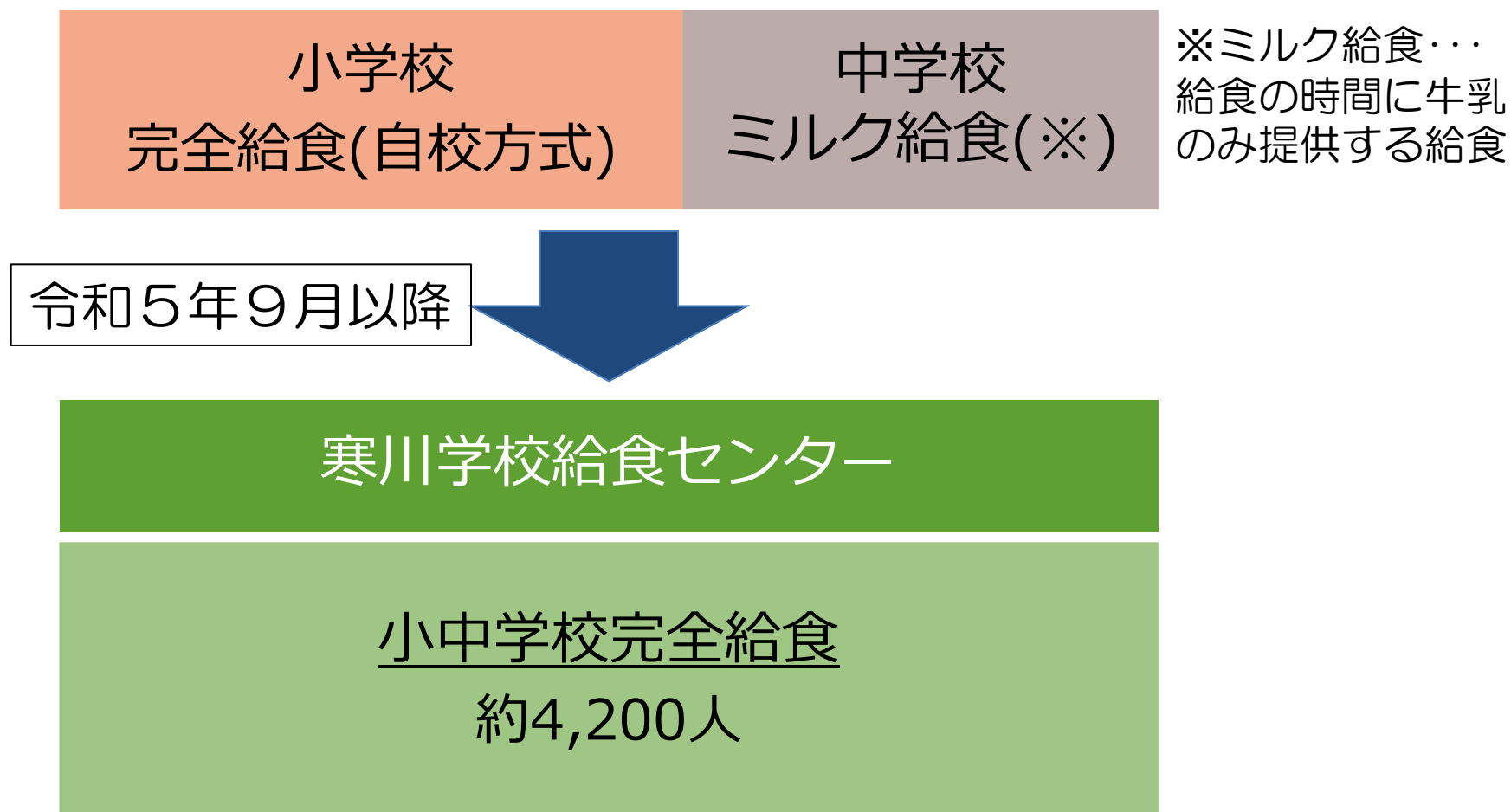
南：茅ヶ崎市

北：海老名市

1 - 2. 寒川町の概要（給食について）

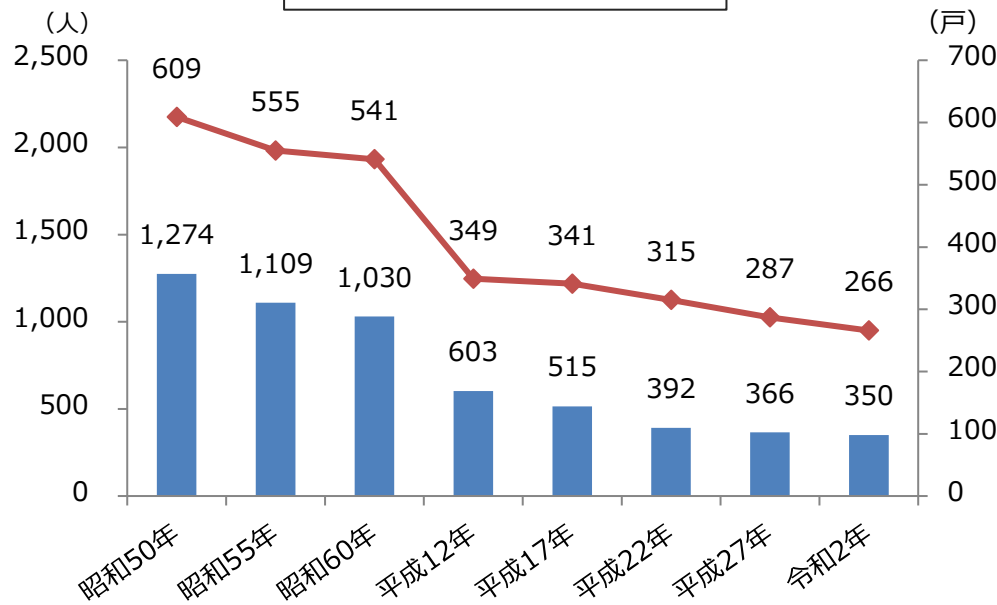
■学校給食について

- ・ 小学校5校、中学校3校の全8校で完全給食提供
- ・ 1日約4,200食
- ・ 令和5年9月に現在の給食センターの運用を開始し、中学校も含めた完全給食となった



1 - 3. 寒川町の概要（農業について）

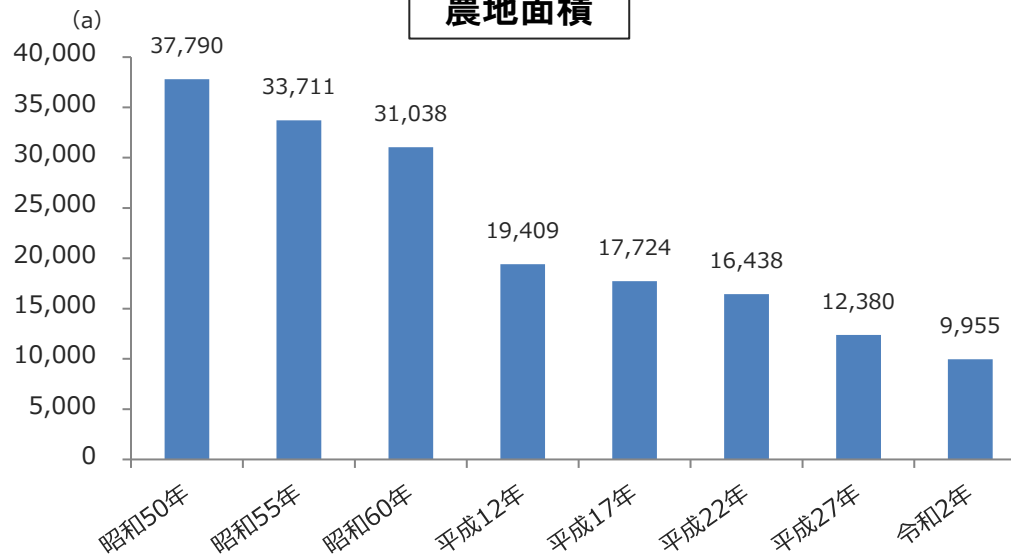
農家数・農業就業人数



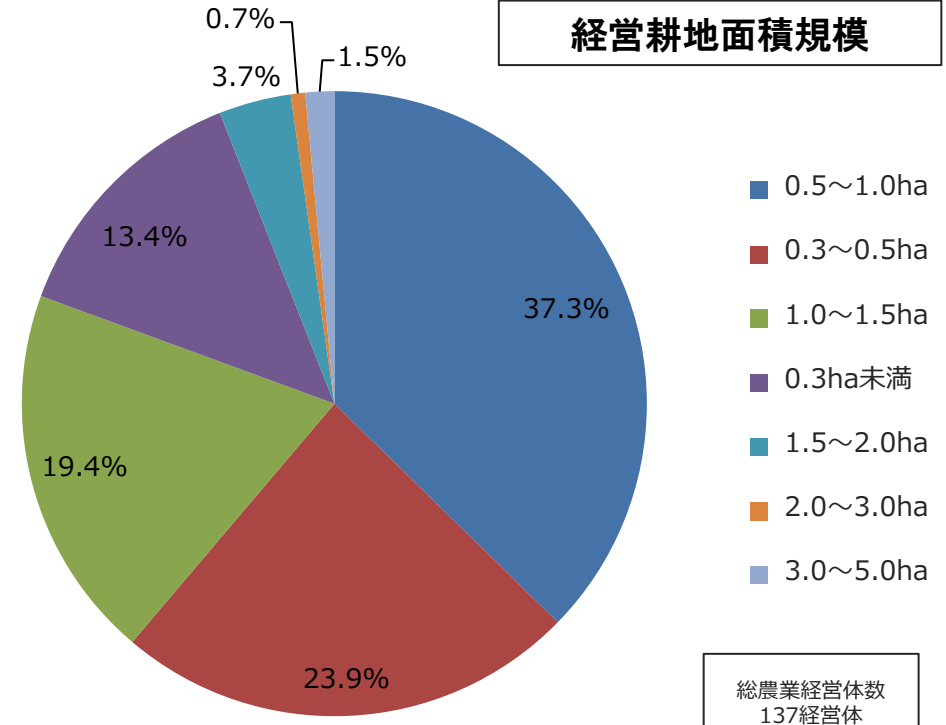
■農業の状況について

- ・農家数、農地面積は減少傾向
- ・経営耕地の90%強は1.5ha以下
- ・直売所があり、少量多品目の兼業農家が多い

農地面積



経営耕地面積規模



総農業経営体数
137経営体

2. 地産地消の取り組みにおける現状（方針等）

当町における地産地消の取り組みについて

■ 国の指針

農林水産省が示している「第4次食育推進基本計画（令和3～7年度）」において「学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす」としており、また、学校給食法の目標においても、「我が国や各地域の優れた伝統的な食文化について理解を深めること」が示されており、双方に合致するとして、町としても力を入れて取り組みを行っている。

■ 町の取り組み

町として当初から変わらず、現在までの考え方としていることとして、安定した地場産物の確保により給食の献立として提供されることにより児童生徒の中に意識づけができ、それは食育につながると考えている。

また、地場産物の中でも寒川産に特化した形で取り組みを行っている。

2. 地産地消の取り組みにおける現状（取組経過）

■これまでの取り組み

○令和3年度

地産地消の推進に向けて取り組みを本格化。最初に、「学校給食コーディネーター」を教育委員会内に設置し地産地消推進体制を整備。

○令和4年度

寒川産農産物のプレ出荷を実施。

○令和5年度

給食センターの運用開始。センター方式における新たな納品体制を模索しつつ納品を継続。

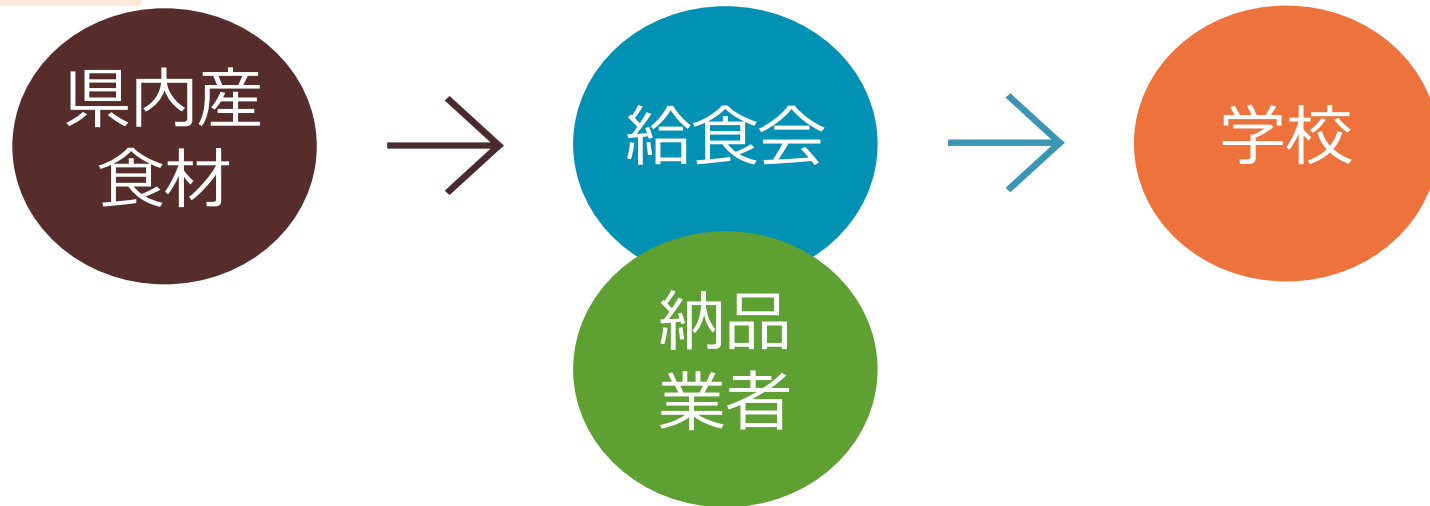
○令和6・7年度

地元のJA組織であるさがみ農協に対して学校給食への地場産物使用促進の協議を継続。特に、生産者のためにどのような取り組みを行うことが望ましいか、仲介を行うJAと生産者の関係構築や町としての推進に向けた体制構築の精査・検討を継続中。

2. 地産地消の取り組みにおける現状（納品体制の変化）

当初と現在の体制の違い

当初



現在



取組当初の課題①

地場産品を購入する方法・手段

生産者と交渉する方法・手段

令和3年度の時点では、町において上記のようなノウハウがなく、寒川産物の購入は食材納品業者（八百屋）の市場からの仕入れ状況次第で左右されていた。

そのような方法では、寒川産を取り入れることはほぼできない状況を打開する必要があった。



地元産物、生産者を把握しているＪＡとの連携へ

取組当初の課題②（農業の状況等）

農協との連携を行っていく中で、町における農業の状況を把握。その結果、新たな課題が顕在化。

生産者

- ・都市型農業地域
- ・少量多品種栽培の兼業農家が多い
- ・直売所『わいわい市』で販売
- ・「給食＝厳しい品質」というイメージ

商品配送

- ・既存配送体制無
- ・直売所は生産者の持ち込み
- ・農協として配送体制を新たに構築することは困難

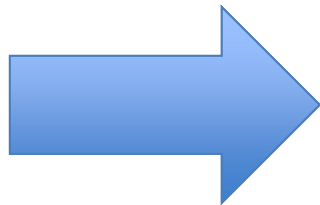
販路

- ・直売所経由にするか、営農経由にするか

当初課題に対する取組

課題に対して次のようなことを実施

- ① J A主催での生産者向け説明会実施
- ② J A、町の双方出席での研修会実施
- ③ J Aとの体制構築に向けた継続的な協議実施



実際の出荷体制の確立から分かることもある
と考え、「プレ出荷」の実施へ

3 - 2. 課題と具体的な取り組み（初期・課題）

取組初期の課題

JAと連携し、プレ出荷を行っていく中で新たな課題に直面

生産者

- ・ 納品日の制限
- ・ 商品規格
- ・ 納品の計量、検品

商品配送

- ・ 配送体制が構築できない

販路等

- ・ 納品量不足時の対応
- ・ 価格設定



町として、地場産物を取り入れた学校給食を提供したいという意識のもと、課題解決を検討

3 - 2. 課題と具体的な取り組み（初期・取り組み）

取組初期の課題への具体的な取り組み

町として何ができるかを考え、以下のようなことを実行

生産者向け

- ・ 地場産野菜保存用の冷蔵庫整備
- ・ 納品用折りたたみコンテナ配布
- ・ 生産者向け食材規格を作成し提示

商品配送

- ・ 正式な体制が確立するまでの、プレ出荷時は町で配送を代行（JA→学校）

販路等

- ・ 価格は農家要望を受け入れつつ、市場価格との乖離を抑えた額で調整
- ・ 生産者への負荷を最小限にするようJAと連携し仕入れ対応を検討

取組中期の課題

プレ出荷から給食センター運用開始とともに本格的な納品開始、
その中で出てきた課題等は次のとおり。

生産者

- ・ 初期からの課題である納品日、規格等
- ・ 給食献立における食材の情報不足

商品配送

- ・ 生産者直送へ移行
- ・ 納品時間の長さ

販路等

- ・ 納品量不足時の対応
- ・ 適正な価格設定

3－3．課題と具体的な取り組み（中期・取り組み）

取組中期の課題への具体的な取り組み

初期と同様に町としてどうすべきかを念頭に取り組み実施。

生産者向け

- ・ 規格等については継続協議
- ・ 使用予定数量を事前に周知
- ・ 食材の使用献立内容を生産者と共有

商品配送

- ・ 他の納品との時差受入れ等を調整

販路等

- ・ JAによる仕入れ納品体制の確立を要請
- ・ 価格は直売所および町内スーパー等への納品価格をもとに決定

3－4．課題と具体的な取り組み（現在・課題）

現在の課題

センター給食開始とともに本格的な運用を行っている中で、現在生じている課題

生産者

- ・ 納品日、商品規格（継続検討課題）
- ・ 品質確保
- ・ 出荷者の拡大

商品配送

- ・ 納品時間の長さ（継続検討課題）
- ・ 納品量の増加によるJAの作業増

販路等

- ・ 適正な価格設定（継続検討課題）
- ・ 仕入れ時の青果店への配慮（主に価格面）

3－4．課題と具体的な取り組み（現在・取り組み①）

現在の課題への具体的な取り組み

さらなる拡大を念頭に町としてどうすべきか実施中。

生産者向け

- ・ 目合わせ会実施
- ・ 栽培研修会実施
- ・ 新規就農者への働きかけ
- ・ 貯蔵庫の増設

商品配送

- ・ 受入れ時間の調整
- ・ 検品作業等の効率化
- ・ 納品時の運搬補助

販路等

- ・ 随時価格を変更

3 - 4. 課題と具体的な取り組み（現在・取り組み②）

現在の課題への具体的な取り組み例

野菜貯蔵庫（給食センター屋外へ設置）



納入農家向け
ラベルシール作成

その他JAと連携して実施した取組

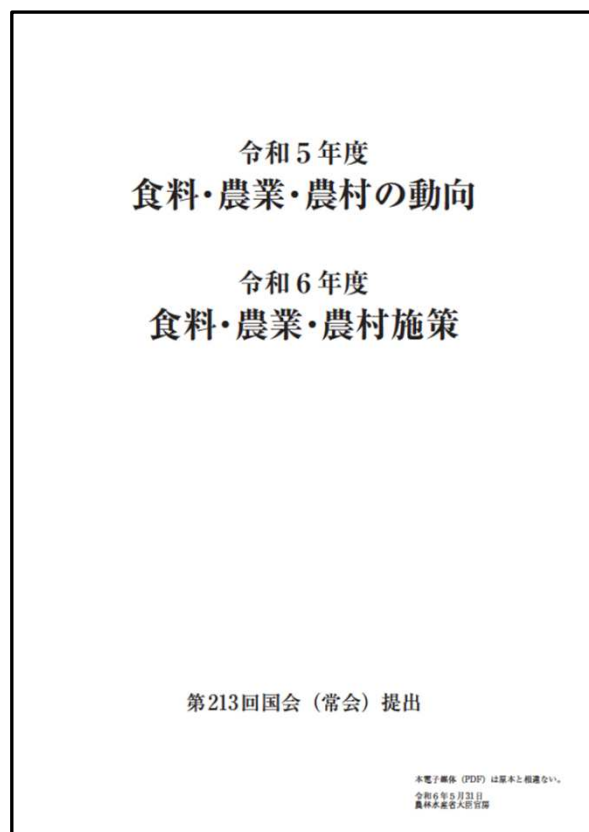
- **研修会等の実施**
(地産地消コーディネーター派遣事業を活用)
- **他の事例視察**
(寒川町ではJAはだのを視察)
- **定期的な生産者を交えた意見交換会**
- **JA主催での栽培研修会**
(R7年度は秋馬铃薯、春玉ねぎ、農薬の研修実施)
- **JA同行での栄養士調理員を含めた圃場視察**
(圃場において生産者と交流し食育へつなげる)
- **圃場から生産者をつなぐ取組**
(学校給食コーディネーターを仲介しJAと連携)

3－5．課題と具体的な取り組み（その他の取り組み②）

学校給食コーディネーターによる地産地消推進

令和3年度から新たに「学校給食コーディネーター」を配置し、町と農協と生産者をつなぐパイプ役としている。

＊農林水産省刊行の「令和5年度 食料・農業・農村白書」に優良事例として掲載（以下、実際の掲載記事抜粋）



（事例）学校給食コーディネーターを中心に学校給食の地場産活用を強化（神奈川県）

神奈川県寒川町^{さむかわまち}では、栄養分野のほか学校給食や地域農業にも知見を持ち、同町と生産者をつなぐ架け橋としての役割を担える人材を「学校給食コーディネーター」として位置付け、学校給食における地場産活用の拡大を進めています。

同町では、小学校に加えて中学校でも完全給食を実施し、数十年先まで、安全・安心でおいしい給食を提供することを目指し、より質の高い学校給食を児童・生徒に提供できるよう、地場産食材の活用等を推進しています。

令和4(2022)年度には、消費・安全対策交付金を活用し、学校給食における地場産農産物の活用促進に向けたマッチング調査や、地域の農業者との面談等を実施したほか、生産者と給食センターの間での調整を行う学校給食コーディネーターを中心に、地場産の中でも特に同町産の農産物が納品できる体制づくりを進め、地場産農産物の供給体制の強化を図りました。

また、学校給食センターでの地場産活用の拡大に向け、役場内の関係部局やさがみ農業協同組合と連携し、学校給食における地場産食材の活用促進に取り組んだところ、町内の小学校全5校で同町産物の使用回数が約3倍に増加するなどの成果が見られています。

同町では、令和5(2023)年9月から学校給食センターが本格稼働しており、今後とも、同町産を中心に、県内で生産された新鮮な食材を活用した献立や、食育の取組を通して、地域性を感じながら給食が楽しめる工夫を行っていくこととしています。



学校給食に地場産野菜を供給する農業者

資料：神奈川県寒川町

食育の推進として実施した取組

- 「今日の給食」において地場産物を紹介
日々HPで公開している給食情報において、
地場産物の紹介を実施
- 献立に「寒川の日」というスタンプ作成
児童生徒の認知度は高く、寒川産食事の使用の
意識づけに寄与している
- 学校の授業で、生産者を交えた授業実施
仕事等のインタビューを行う授業において、
栄養士だけでなく農業者を招いて実施
- 食育担当者会議での情報共有
地場産物活用が増えたことで、学校内において
地場産物活用の意識が高まっている

3-5. 課題と具体的な取り組み（その他の取り組み③-2）

きょう きゅうしょく 今日の給食

令和7年10月30日



献立	- ごはん - 牛乳 - チンジャオロース - 白菜のスープ	イイネ!
----	---	------



きょう きょうしょく
今日は「寒川の日」です。

きょうしょく
給食のごはんは来週くらいまで私たちの住んでいる寒川産の新米を使います。お米の品種は「はるみ」です。

また、「白菜のスープ」は、寒川町の倉見にお住いの井部友彦さんが育ててくれた「はくさい」で作りました。

寒川の農家の方々が育ててくれた新鮮な食材をおいしくいただきます。

栄養士



きょう きゅうしょく 今日の給食

令和7年10月31日



献立	- ごはん - 牛乳 - ホッケー凍干し 「高座」のころもろこし - 金時豆の甘煮	イイネ!
----	---	------



明日、11月1日は寒川町の町制記念日です。

今日の給食も「寒川の日」です。寒川産や神奈川県産の食材を使った『「高座」のころもろこし。』鍋を作りました。寒川町の小動で育った小麦から作ったすいとん、宮山の生しいたけ、小動のこまつな、倉見の農家の方々はくさいが入っています。また、給食センターでは、春休みに手作りみそを仕込みました。寒川町のお米で作った「こうじ」と神奈川県津久井大豆を使ったものです。7か月かけて熟成させた「手作りみそ」で味付けしました。おいしく食べてください。

栄養士



※今日は魚です。魚には骨があります。骨が入っていたら骨を取ってください。また、よくかんで、骨があったら口から出して食べましょう。

4. 今後に向けた展開

■ 寒川町

1. 献立使用食材と生産物の収穫周期の同期化
2. 2次加工食材の活用
3. 地場産物を活用した食育活動の推進
4. 国等の補助金を活用した農業支援

※大前提として、JAとの連携をさらに強固なものへ

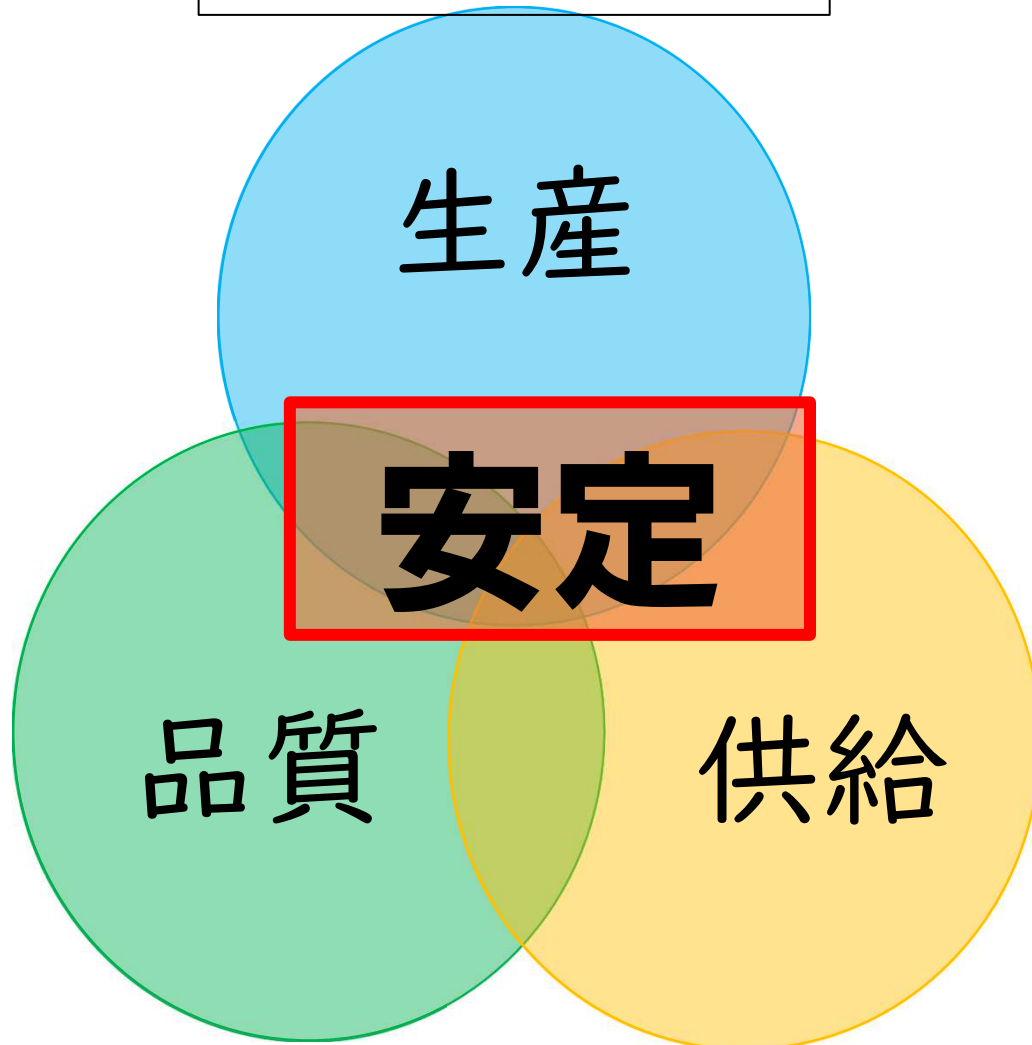
■ JA

1. 学校給食出荷者の増員（新規就農者の取込など）
2. 地場産物特化食材の選定
3. 学校給食を活用した農業者の所得向上
4. 遊休農地等を活用した生産量の増加

※学校給食を活用し、農業人口の拡大へ

地産地消の推進に関する課題へのアプローチ

地産地消の取り組み
(課題の本質)



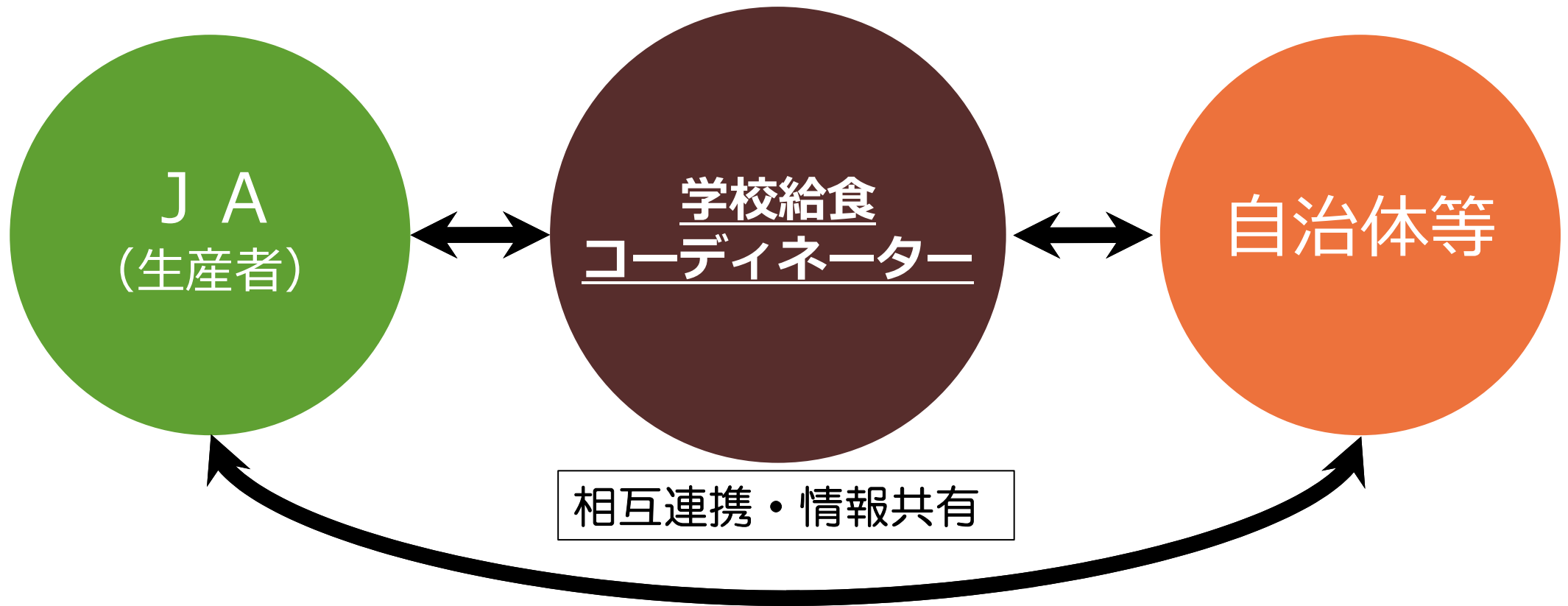
【安定】

生産サイド (JA・農家)
使用サイド (学校給食)
双方が求めているもの



- 生産→出荷の課題
食材量・食材内容
生産可能時期・量
- 品質→規格の課題
給食が求める規格や品質
生産者が出荷できる規格
- 供給→生産物の課題
品種選定
貯蔵体制

地産地消の推進における前提（寒川町の例）



継続していくために重要なのは
「Win-Win」な関係性

最後に・・・取り組みを継続していくために

◎情報共有（話し合い）をしましょう！

（生産者、栄養士、JAの3者にとっての最適解を常に求めていく）

◎「使いたい」・「作りたい」、それぞれの人が関わるからこそ動機付けを！

（「食育のため」、「地域農業のため」、「子どものため」など）

◎地域のカラーに有った進め方や取組を！

（「農地の多い・少ない」、「特産物がある・ない」など）

最初は「誰も無理をしない」「やれることを確実に」の意識が重要

説明は以上となります
ご清聴ありがとうございました



「高座」のころ。

高座郡さむかわ